

ラテラン教会の献堂の祝日の説教

金 大烈 神父 2008年11月9日(日)

《私達は“永遠”を見ましょう》

お元気ですか？

今日はラテラン教会の献堂を祝う祝日ですが、皆様と分かち合いたい事があります。これからお話しするのは、私が10日間韓国に帰っている間に会った2人についてです。

一人はヒアという20歳の女の子です。洗礼名をヒアチンタと言います。彼女は生まれつき両手に指が2本づつしかなく、体も膝の上からしかありません。

今、韓国の色々なテレビで紹介されています。それは彼女が4本しかない指で、全てのピアノの曲を弾くことが出来るからです。ですから韓国での有名なコンサートや、また日本でもコンサートが開かれたと聞きました。3年間、色々な国から招かれて演奏が予約されていると聞きました。その女の子が一番好きな人は自分の兄であるトマス神父だとあるテレビの番組で話したそうです。そしてヒアは時間に余裕があれば、出来るだけ兄のいる教会に行きミサに与っているそうです。

神父と言う者は、大体、自分が説教する前に、どの様に話し初め、どの様に終えるかを予め頭に入れているのですが、ある日、兄のトマス神父も“信者の皆さんにこの様に質問したら、この様に答えるだろう”と思いながら質問しました。

その時一番前の列に、ヒアチンタが座っていたそうです。そしてトマス神父の口から出た質問は「皆様の中で傷が無い人はいるのでしょうか？」というものでした。「傷が無いのでしょうか？傷が無い人は手を挙げて下さい」と言うと誰も手を挙げないと予想しながらした質問でした。しかし、その質問が終わると同時に手を挙げたのはヒアチンタでした。質問が終わったとたんに手を挙げたヒアチンタの姿を見て、トマス神父はのどが詰まり、ものが言えない位になって何分間か過ぎたそうです。涙がのどにまで溢れ言葉を発する事が出来ませんでした。

人間的な目で見れば、ヒアチンタは“不幸”というものを全部持っている人です。20歳の女の子、一番敏感な年の女の子。生まれつき背が1mにもならない。

その人が「傷が無い人、手を挙げて下さい」と言ったら、真っ先に、本当にきれいな顔で「私です」と手を挙げたその姿を皆様をご覧になったら、どの様な気持ちになるのでしょうか。私達はいつも「何故、あの人には良い事が起こるのに、私はこの様な事だけ」という気持ちが沸くのが、私達の心の働きではないでしょうか。

さあ、もう一人の方を紹介させていただきます。3ヶ月前、私もその日初めて出会った方でしたが、足が不自由な50代の男性とその奥さんが、この教会に来られた事を覚えていらっしゃるでしょうか。東京からわざわざ来て一番前の席でミサに与った方です。その方の個人的な歴史について聞く機会が今回与えられました。

彼はこの様に私に言いました。「私は生まれつき小児麻痺でした。その症状はひどかったのですが、幸い家は裕福で、経済的に恵まれていましたので、その様な体で生まれた私に、母は出来る限りの治療をしました。そして十何回か手術を受けました。」子供の頃から中学生になるまで、彼は体を切ったり、削ったり、つないだり何度も手術を受け、大変な痛みの中で思春期を過ごしたそうです。

そして中学生の時シスターから要理の勉強を受ける事になりました。堅信の準備だったそうです。彼は余りにも心が痛くてこの様な質問をシスターにしたそうです。「あなたがおっしゃっている“イエス様”は“3日間”苦しんで復活されたではないですか。もし私が“3日間”だけ痛みを感じて復活できるならば、私は何百回でも釘に刺されます」と。どれ位辛くてその様な話が出来たのでしょうか。

「3日間位苦労して、この世界や人の命を救う事が出来れば、私は何千回でもその様な事が出来ます」

というその子の口から出た言葉を聞き、シスターは何も言えずに「ごめんね。私もあなたの為に祈ろう」としか答えられなかったそうです。

彼は堅信式を受けずに教会から去りました。そして30数年経ち、偶然に私の兄がいる教会に行き、自分でも知らない力によって悔い改め、「命をかけてイエス様を愛しています」という告白は出来たのです。その様な事から奥さんと海外に出かけた時でも、ミサに与らない事が無く、東京から離れた交通の不便なここまで来られたのです。その話を聞き、私も知らないうちに涙が出てしまいました。

そして私はこの様に彼に話しました。「もし、私達のうちで"えらい"とは言われる者も、"ちょっと足りない"と言われる者も、人間的な目でみたら、"それ"は"それ"。良く考えてみれば余り差が無いのです。

人は生まれ、痛みを受けながら人生を送り、結局は死ぬ。それだけを見ればこの世の中は、虚無の世界、空しい世界にすぎません。だから私達はそんな狭い目で、自分の人生とこの世を見てはいけなと思います」と答えました。

もっと広く、もっと遠くを見ましょう。それが出来なければ私達は神様に感謝する事が出来ません。結局、信仰と言うものはイエス様に、キリストに、神様に希望をおくになる事ですから。イエス様のどの部分に私達は希望をおくののでしょうか。それは神様に与えられたこの命を愛しながら、大事にしながら、上手く管理しながら、いつか神様に返せば良い。きれいに死ねば良い。その後神様が“約束した所”に、私達は希望をおくのではないのでしょうか。

よく考えてみましょう。私達は目の前のものに命をかけるとすれば、それは空しさで終わります。必ず空しさで終わります。何のものでも、目の前のものだけ見ようとすれば、必ずそれは虚無に終わってしまいます。私達は永遠を見ましょう。神様が約束した、限りが無い、終わりが無い、その心、その世界を見ましょう。その様な事が出来れば、自分に不幸だと思われるものに襲われても、感謝の心で「神様のみ旨があるだろう」と勇気をもって、それに向かって行く力が出ると思います。

皆様、ある意味で私達は"不幸"です。しかしある意味で"正しく見る"事が出来れば、私達は例外なしに皆幸せです。これが信仰ではないのでしょうか。

そして最後に、今日ラテラン教会の献堂の祝日に、この太田教会が本当に素晴らしい教会になっている事を感謝致します。"祈る"場所に相応しい落ち着きが保てる様になりました。しかしまだまだと思えるところもあります。この教会が一層素晴らしいものになるよう、心を合わせて努力して行きましょう。

ありがとうございました。